



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2112 URL <http://www.ensuiko.co.jp>  
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)浅倉 三男  
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役管理グループ長 (氏名)安戸 久仁彦 (TEL) (03) 3249-2381  
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	23,453	8.2	854	△21.2	1,000	△16.0	△626	—
23年3月期第3四半期	21,684	5.7	1,083	8.9	1,191	△7.3	738	△19.5

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 321百万円(△15.7%) 23年3月期第3四半期 381百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
24年3月期第3四半期	円 銭 △23 31	円 銭 —
23年3月期第3四半期	27 51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
24年3月期第3四半期	百万円 25,707	百万円 5,530	% 21.5
23年3月期	27,748	5,345	19.3

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 5,530百万円 23年3月期 5,345百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 5 00	円 銭 5 00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5 00	5 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,700	4.5	920	△19.5	900	△21.5	△450	—	△16 75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

24年3月期3Q	35,000,000株	23年3月期	35,000,000株
24年3月期3Q	8,139,601株	23年3月期	8,139,601株
24年3月期3Q	26,860,399株	23年3月期3Q	26,860,491株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4 「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) セグメント情報等 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により厳しい状況にある中、景気は緩やかに持ち直しつつありますが、欧州の財政不安等に起因した海外景気の下振れや長引く円高、電力供給の制約などから、デフレ経済から脱却できず、個人消費は横ばいの状況で推移しました。

当第3四半期連結累計期間の海外原糖市況は、期初27.44セント（ニューヨーク市場粗糖先物相場（期近限月の引け値、1ポンド当たり。）以下同じ。）で始まりましたが、2011/12砂糖年度における世界砂糖需給が大幅な供給過剰になるとの予想から5月上旬に20.40セントまで下落しました。しかしその後、大幅な増産が予想されていた主要生産国ブラジルの産糖量が下方修正されたため、8月には当累計期間最高値の31.85セントまで値を上げました。9月に入ると、欧州の一部の国々の金融不安が深刻化し、世界的な景気低迷によるリスク回避から商品全般に調整が入る中、結局23.30セントで当第3四半期連結累計期間を終了しました。

当第3四半期連結累計期間の国内市中価格は以下のとおり推移しました。

・東京市場現物相場（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり。）

期 初	189～190円
安 値（7月）	185～186円
高 値（10月）	190～191円
期 末	190～191円

かかる状況の中、当社グループは高品質で安心、安全な製品の安定供給を第一義とし、顧客満足度を一層高めるとともに、価格競争力の一層の向上に努めましたが、原材料価格の上昇やタイ産原料糖の品質低下による歩留り悪化等から製造コストが増加したことにより、営業利益、経常利益ともに前年同四半期を下回りました。

以上のほか、保有有価証券の時価下落に伴い、1,937百万円の特別損失を計上しております。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

当第3四半期累計期間	金額	前年同四半期比
売上高	23,453百万円	8.2%増
営業利益	854百万円	21.2%減
経常利益	1,000百万円	16.0%減
四半期純利益	△626百万円	※ ー%

※ 前年四半期は738百万円の利益であります。

また、セグメントごとの業績は次のとおりであります。

当第3四半期累計期間	売上高		セグメント利益	
	金額	前年同四半期比	金額	前年同四半期比
砂糖事業	21,657百万円	8.9%増	1,464百万円	14.8%減
バイオ事業	1,139百万円	1.1%減	115百万円	319.9%増
不動産賃貸事業	656百万円	1.6%増	87百万円	10.5%減
調整	—	—	△813百万円	—
連結損益計算書計上額	23,453百万円	8.2%増	854百万円	21.2%減

(注) セグメント利益の調整額△813百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△813百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

## ①砂糖事業

販売数量につきましては、4～6月期は夏場の電力不足懸念に起因したユーザーの前倒し生産による需要増から前年同四半期を上回りましたが、7～9月期は節電によるユーザーの生産調整、10～12月期は価格先安感を背景とした需要減があり、結局、4～12月期では前年同四半期を下回りました。

売上高につきましては、当第3四半期連結累計期間は国内販売価格水準の上昇に伴い前年同四半期を上回りました。また、セグメント利益につきましては、工場の連続操業や節電などに取り組むとともに、コスト削減に努めましたが、原料糖価格の上昇に加え、タイ産原料糖の品質低下による歩留り悪化や燃料費アップ等から製造コストが増加し、前年同四半期を下回りました。

## ②バイオ事業

## ・オリゴ糖

家庭用「オリゴのおかげ」は量販店を中心に拡販に努め、一定の成果をあげました。

業務用は、本年4月1日をもって家庭用と同じ「オリゴのおかげ」ブランドに統一し、新規ユーザーへの販促に努めました結果、飲料ユーザー向けが新規採用されました。

以上により、売上高は、家庭用、業務用ともに前年同四半期を上回りました。

## ・サイクロデキストリン（CDと略称。）

飲料、健康食品などの食品分野のほかに、非食品分野への販促に努めました結果、化粧品向けが順調に推移しました。また、メタボリックシンドローム対応素材の「サラシア属植物エキス末」の販促に努めました。以上から、CDの売上高は「サラシア属植物エキス末」が堅調に推移しましたものの、概して既存ユーザー向けが減少したことにより前年同四半期を下回りました。

## ③不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました。

研究開発につきましては、乳糖果糖オリゴ糖がインフルエンザ感染予防や感染後の症状軽減に効果があることを明らかにし、特許を出願いたしました。また、当該感染予防効果につき日本免疫学会学術集会で発表いたしました。肝機能改善などの機能を有するグルクロン酸の新規工業的生産技術のノウハウにつきましては、継続して第三者への貸与等に努めました。また、抗がん剤「糖修飾パクリタキセル」をリポソームに包み込み、副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」に関しましては、引き続き実用化を目指して研究開発を精力的に進めました。

また、農林水産省からの研究委託事業として取り組んでいる、米粉を原料とした乳化機能を有する食品素材の開発につきましては、計画通りに研究を推進しました。

バイオ製品（オリゴ糖、CDなど。）につきましては、一層の製造コストの低減と品質の向上に取り組むとともに、CDが食品の辛味低減に有効であることを論文発表しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて2,041百万円減少し、総資産は25,707百万円となりました。これは主に投資有価証券の売却及び時価下落によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べて2,226百万円減少し20,176百万円となりました。これは主に、借入金の約定弁済が進んだことによるものであります。

また、純資産合計は前連結会計年度末に比べて185百万円増加し、5,530百万円となりました。これは主に、投資有価証券を減損処理したことにより有価証券評価差額金の負の計上額が減少した一方で、四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、平成23年11月10日に公表いたしました業績予想と変更はございません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,152	1,040
受取手形及び売掛金	1,826	2,262
商品及び製品	796	848
仕掛品	194	155
原材料及び貯蔵品	1,520	986
未収還付法人税等	183	55
繰延税金資産	99	298
その他	1,172	1,213
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	6,946	6,859
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,339	9,369
減価償却累計額	△4,484	△4,683
建物及び構築物(純額)	4,854	4,685
機械装置及び運搬具	10,873	10,956
減価償却累計額	△8,706	△9,014
機械装置及び運搬具(純額)	2,167	1,942
工具、器具及び備品	365	394
減価償却累計額	△308	△326
工具、器具及び備品(純額)	56	68
土地	5,190	5,190
建設仮勘定	9	15
有形固定資産合計	12,278	11,901
無形固定資産	122	101
投資その他の資産		
投資有価証券	5,633	4,414
長期貸付金	1,187	1,321
繰延税金資産	1,484	959
その他	105	158
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	8,401	6,844
固定資産合計	20,802	18,847
資産合計	27,748	25,707

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,387	529
短期借入金	8,025	9,270
未払法人税等	29	—
未払消費税等	13	105
繰延税金負債	—	35
賞与引当金	65	33
その他	1,187	1,059
流動負債合計	10,708	11,033
固定負債		
長期借入金	9,934	7,427
退職給付引当金	1,272	1,231
役員退職慰労引当金	222	237
その他	264	246
固定負債合計	11,694	9,143
負債合計	22,403	20,176
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,422	6,660
自己株式	△3,116	△3,116
株主資本合計	6,322	5,560
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△912	△75
繰延ヘッジ損益	△65	45
その他の包括利益累計額合計	△977	△29
純資産合計	5,345	5,530
負債純資産合計	27,748	25,707



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	21,684	23,453
売上原価	17,765	19,880
売上総利益	3,918	3,572
販売費及び一般管理費	2,834	2,718
営業利益	1,083	854
営業外収益		
受取利息	64	35
受取配当金	146	173
持分法による投資利益	33	23
デリバティブ利益	9	15
雑収入	35	48
営業外収益合計	289	295
営業外費用		
支払利息	163	137
支払手数料	12	5
雑損失	5	6
営業外費用合計	181	149
経常利益	1,191	1,000
特別利益		
投資有価証券売却益	0	56
その他	1	—
特別利益合計	1	56
特別損失		
役員退職慰労金	0	—
たな卸資産廃棄損	10	—
投資有価証券売却損	40	—
投資有価証券評価損	—	1,937
環境対策費	7	—
その他	1	7
特別損失合計	59	1,944
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,132	△888
法人税、住民税及び事業税	426	23
法人税等調整額	△32	△286
法人税等合計	393	△262
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	738	△626
四半期純利益又は四半期純損失(△)	738	△626

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	738	△626
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△232	822
繰延ヘッジ損益	△110	110
持分法適用会社に対する持分相当額	△14	13
その他の包括利益合計	△357	947
四半期包括利益	381	321
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	381	321
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,885	1,152	646	21,684	—	21,684
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	19,885	1,152	646	21,684	—	21,684
セグメント利益	1,719	27	97	1,844	△760	1,083

(注) 1. セグメント利益の調整額△760百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△760百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	21,657	1,139	656	23,453	—	23,453
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	21,657	1,139	656	23,453	—	23,453
セグメント利益	1,464	115	87	1,667	△813	854

(注) 1. セグメント利益の調整額△813百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△813百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。